



第 379 号

令和4年7月13日発行

- 巻頭言
- 第73回全日中総会報告
- 地区だより・論文
- 文芸・さりながら
- 大会案内
- 地区研・事務局日誌

第73回全日本中学校長会総会



コロナ禍の今こそ

北海道中学校長会 副会長 越田 公美

数年前、旭山動物園 坂東元 園長の御講演を聞く機会があった。北海道公立学校教頭会研究大会上川大会での御講演なので、参加された方もいらっしゃるのではないだろうか。

「つなぐのは命」と題された御講演は、興味深い内容であったことは勿論、穏やかな語り口もあり、すぐに引き込まれ夢中になって聞いていたことを覚えている。中でも「動物にとっての安全な環境は、能力を使わなくていい環境で、本来の能力を奪ってしまう。だから他では危険とされることも、旭山動物園にはあえて残している」という言葉が今でも印象に残っている。確かに、動物が生活する場は、安全な環境とはいえない。むしろ常に命の危険にさらされる環境である。坂東園長はさらに、「思い通りにならない環境だからこそ、本来の能力を引き出し、伸ばすことができる。そして他を思いやる優しさをもつことができる」とも話されていた。なるほどと思うとともに、子供たちが生活する場はどうかと考えさせられた。安全過ぎて、本来の能力を引き出すことができているのか、思いやりや優しさをはぐくむことができているのかにはなっていないのか。そして改めて、たくましく育てなければならぬと強く思った

ことを記憶している。

さて、新型コロナウイルス感染症とも2年以上の付き合いとなった。緊急事態宣言、臨時休業等、予測困難で思い通りにならないことが多かった。ときには難しい決断を迫られることもあった。しなやかに対応したと言いたいところではあるが、何とか今を迎えることができているという感じである。どうも、思い通りにならない生活はこれから先も続くと感じなければならぬようである。

ということは、今はまたとないチャンスではないか。思い通りにならないときだからこそ、考えさせられることがあり、不自由な生活だからこそ、引き出し伸ばすことができる能力があるはずである。しかも予測困難な未来を生きる子供たちにとっては、シミュレーションとなるかもしれない。子供たちの能力をどう引き出すか、それを考えるとワクワクするではないか。皆で連携・協働し、ピンチはチャンスであることを示そうではないか。

コロナ禍にあっても、子供たちの心に火を灯し、たくましく、他を思いやる優しさをもった子供へと成長させることができたなら、少しはしなやかに対応できたと思えるのかもしれない。

第73回 全日本中学校 校長会総会

[5月18日(水)] 午前

○議事

1 令和3年度会務報告

2 令和3年度決算報告

3 令和4年度役員選出(会長及び道中関係分)

会長 東京都台東区立忍岡中学校 平井 邦明

副会長 登別市立緑陽中学校 野崎 均

理事 札幌市立北栄中学校 笹川 恒春

理事 札幌市立東月寒中学校 越田 公美

理事 留萌市立留萌中学校 藤田 智哉

4 令和4年度活動方針

5 令和4年度予算

6 令和5年度第74回全日中研究協議会開催地

開催地 大分県別府市

開催日 令和5年10月26日(木)、27日(金)

7 令和5年度第74回全日中研究協議会主題・分科会研究題

・研究協議会主題

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

・分科会研究題(担当地区)

(1) 「カリキュラム・マネジメント」の推進(九州)

第73回全日本中学校長会総会は、新型コロナウイルス拡大防止のため全日中会館及び各基地局、各役員・代議員の所属校にてWebを活用し、5月18日に開催された。

会長挨拶の後、議事では下記の案件が審議、承認された。また、同日午後からは文部科学省初等中等教育局主任視学官の講演があり、その後文部科学省行政説明が行われた。

(2) 「主体的・対話的で深い学び」の実現(四国)

(3) よりよく生きようとする意思や能力を育む道徳教育の充実(東海北陸)

(4) 健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実(東北)

(5) 社会的・職業的自立に向けたキャリア教育と進路指導の充実(関東甲信越)

(6) 自他を敬愛し他者と協働しながら自己実現を図るための自己指導能力を育成する生徒指導の充実(中国)

(7) 多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成(北海道)

(8) 学校と地域の連携・協働による「チーム学校」の実現(近畿)

8 宣言・決議

[5月18日(水)] 午後

○講演「最近の初等中等教育の動向」

講師 文部科学省初等中等教育局主任視学官 宮崎 活志 氏

○文部科学省行政説明

説明 教育課程課・財務課・地域スポーツ課

児童生徒課・地域人材政策課

宣 言

今日、我が国の教育は人格の完成を目指し、伝統と文化を尊重するとともに、豊かな人間関係で満たされる社会を創るたくましい日本人を育成する使命を担っている。

私たちは、自然災害や新たな感染症の発生、グローバル化の進展や急速な技術革新など社会状況が変化する中、新しい時代の中学校教育の課題に対応し、教育基本法をはじめとする教育関連法規や学習指導要領の趣旨を踏まえ、自らの責任において全日中新教育ビジョンに基づく学校からの教育改革を推進し、教育の真価を示さなければならない。

全日本中学校長会は、教育改革の推進と当面する諸課題の解決に努め、新たな中学校教育の創造を目指し、国民の負託に応えることを宣言する。

決 議

第73回総会に当たり、以下の事項を決議し、その実現を期する。

- 一、人間尊重の精神に徹し、「社会を生き抜く力」とともに「よりよい社会を形成する力」を育む教育を推進する。
- 一、全日中新教育ビジョンを踏まえ、学習指導要領に基づく特色ある教育課程を編成・実施・評価・改善し、確かな学力の定着、豊かな心と健やかな身体の育成を推進する。
- 一、現在の学校教育課題に即した研修を充実し、教職員の資質・能力の向上と使命感の高揚に努める。
- 一、創意ある教育活動を展開し、家庭・地域社会の信頼に応える教育を実現するため、人的措置をはじめ確固とした教育条件の整備・充実を期する。
- 一、「教科書無償給与制度」「義務教育費国庫負担制度」及び「人材確保法」の堅持を要請し、教育水準の維持向上を期する。
- 一、学校が担うべき業務の明確化・適正化をはじめ、学校の組織運営体制の見直し、教職員の意識改革等により「学校における働き方改革」を推進し、新しい時代に求められる学校づくりに向けてリーダーシップを発揮する。
- 一、東日本大震災をはじめ近年多発する災害等により被災した地域の復興を期し、教育活動の充実に向けた支援と全国各地区・各学校における防災教育・安全教育の充実を努める。

令和4年5月18日

第73回 全日本中学校長会 Web 総会

第73回 全日本中学校 校長会総会

会長就任挨拶

全日本中学校長会 会長 平井 邦明 氏



たたいま、全日本中学校長会第46代会長の御承認いただきました、東京都台東区立忍岡中学校長、平井邦明でございます。新役員を代表いたしまして、一言御挨拶申し上げます。

本日ここに、皆様の御承認をいただき大役を仰せつかりましたことは、身に余る光栄でございます。各都道府県中学校長会の連合体である全日本中学校長会の目的を達成するため、全力で会長の責務を果たす所存でございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

この1年間、全日本中学校長会のために御尽力いただきました宮澤一則会長をはじめ、副会長、理事、そして幹事の皆様には新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面での会議がかなわぬ状況が続きましたが、本会の運営、及び、発展に御尽力をいただきましたこと心より感謝申し上げます。

さて全日本中学校長会綱領には「我々は校長の使命に徹し、結束して中学校教育の振興に努め、もって国民の信託に応える」、このような前文がございます。そして全日本中学校長会の会則第2条には「本会は、全国各都道府県中学校長会相互が緊密な協調を保ち、中学校教育の振興を図り、国家社会の発展に寄与することを目的とする」と記されています。「使命に徹する」…これにつきましても各学校の長である校長の一人一人の取組姿勢と捉えることができますが、「結束し中学校教育の振興に努め、国家社会の発展に寄与し、国民の信託に応える」…これについては全国の中学校長が連携し、共に歩みを進めなければ達成することができません。そのため都道府県校長会との連携を一層強化するとともに、様々な全国的な課題に対する意見や情報の交換等を通じて課題の解決に向けて尽力してまいりたいと存じます。是非とも副会長をはじめとする各理事の皆様、部長、そして幹事の皆様、全ての会員の皆様のお力添えを心よりお願い申し上げます。

ここで、今後、全日本中学校長会として取り組むべきこと3点について述べさせていただきます。

第1は「持続的かつ効果的な学びの保障」です。新型コロナウイルス感染症との戦いは約2年半となりました。昨年度は一昨年度のような全国一斉臨時休校という措置はとられませんでした。断続的な緊急事態宣言の発令、また、蔓延防止重点措置の適応等、学校の教育活動に対する影響は本当に大きなものがありました。そして現在も変異株の出現により、多くの新規感染者数が報告される状況にあります。令和3年1月に示された令和の日本型学校教育では、全ての生徒たちの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの実現、主体的・対話的で深い学び等の教育内容の進展、一人一台端末やデジタル教科書の有効活用等、指導方法の改善が求められています。これまで各学校で感染拡大に混乱しながらも、一人一台のICTを活用したり、様々な工夫を凝らして学校行事を成立させたりしながら生徒の学びの保障に取り組んできたと思います。今後も感染状況を注視しつつ、生徒と教職員の健康と安全を確保しながら適切に教育活動を進めるとともに、指導方法の工夫改善に取り組んでいかなければなりません。また、小学校では35人学級が始まりました。中学校においても発達障がいのある生徒等、多様な生徒に対応するには教育環境の整備は必須条件であります。また、令和6年度から本格導入となるデジタル教科書の実証実験が全国に拡大されましたが、不具合時の対応で混乱したり、生徒の依存が広がったり等、様々な課題も報告されています。そのため学校がデジタル教科書に対して懸念をもつのは当然かもしれません。環境整備だけではなく、紙媒体とデジタルの比較検証を踏まえた導入の在り方についても、全国の校長先生方と課題を共有し、国に対して要望を行っていただければと考えております。まだまだ先が見えない状況にある中、行政との緊密な連携の下、全国の校長先生方の知恵と情熱を結集し、課題の解決に全力で取り組んでまいります。

第2は「学び続ける教員の実現と教職の魅力の向上」です。教員免許更新制度を廃止して新たな研修の仕組みを導入するため、教育職員免許法と教育公務員特例法が改正され、教育委員会による研修記録の作成や資質向上のための指導助言が義務化されます。これは教員の主体的な学びを実現することが求められてきています。子供たちを取り巻く環境が加速度的に変化する状況にある中、10年前に受講した研修の内容が全て役立つということはありません。今回の教員免許更新制の廃止は、正に今起きている学校教育の課題的的確に対応することができるだけの力量を兼ね備えた教員の育成が必要ということであり、足りない部分を補

うだけではなく、時代の要請に合った課題の研修を受けることができるというメリットがある等、教員一人一人が自覚を新たにできる機会でもあります。しかしながら、管理職が研修に対する前向きな姿勢をもたせたとともに、自身が望んだ研修を確実に受けたり、更に自己研さんに励んだりすることができる環境が整備されなければ意味がありません。平成31年1月の中央教育審議会答申に学校の働き方改革の目的が示され、その後、勤務時間管理の徹底と健康管理を意識した働き方改革が促進されました。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大への対応に追われ、そのスピードは落ちているように感じます。全国の校長先生方と課題等を共有し、対応策についての情報交換等を通じて環境整備を進めていくことができればと考えております。そしてこの環境整備が「教職の魅力の向上」にもつながると考えております。令和3年4月時点、全国の公立学校1,897校で2,558人の教員が不足していること、小学校の教員採用倍率は3年連続で最低倍率を更新し、中学校の全国における倍率も5.1倍と前年度から大きく低下していることが明らかになっています。さらに、3月から4月にかけて日本若者協議会が教員志望の高校生、大学生、大学院生、211人を対象に行った調査では、教員志望の学生が減っている理由として94%の人が長時間労働と過酷な労働環境、そして77%の人が留活動顧問等、本業以外の業務が多いことを選択しています。子供のためという思いの積み重ねが今の学校現場を作り上げてきたことは事実ですし、ある意味、美徳でもありました。しかし、就職先を選ぶ、その際の重要な要素がワークライフバランスであることを踏まえ、全国の校長先生方とともに、更なる働き方改革に取り組むとともに、現在検討が進められている運動部活動の地域移行等についても円滑な移行につながるべく全国の中学校長の総意として行政機関に意見を述べていきたいと考えております。

第3は「全日中新教育ビジョンの更なる周知と推進」でございます。全面実施2年目を迎えた新学習指導要領では、変化の激しい予測困難な時代にあっても子供たちが予測できない変化に対し主体的に向き合っていく力、自らの可能性を發揮して未来社会を作り出す「生きる力」としての資質能力を育むことが求められています。一昨年5月に策定されました全日中新教育ビジョンには、情報技術の進歩や国際社会の急激な変化等、予測困難な社会においてたくましく生き抜く明るい未来を創造する人間を育成するため、学校が取り組むべき具体的な目標と目標実現のための事項を10の提言にまとめています。この10の提言は5年から10年を目途に各学校が取り組む中長期的な目標であります。全国の校長先生方が全日中新教育ビジョンを根幹とした学校経営を進め、教育課題に取り組むことが生徒たちの健全な成長につながり、日本の発展に寄与すると考えております。いじめ、暴力等の問題行動の発生、特別な支援を必要とする生徒の増加等、課題が山積する状況にある中、これらの資質や能力を育むのは学校の力では困難です。家庭や地域と連携協働しながら教育活動を充実させていくことがどうしても必要となります。そのため学校からの教育改革を推進し、よりよい学校教育がよりよい社会を作るという教育の目標を地域社会と共有できる体制を築きたいと考えています。この機会に改めて全日本教育ビジョン策定の基本的な考え方や具体的な取組の方法を全国の校長先生方と確認をさせていただくとともに更なる推進に向けて共に取り組んでいくことができればと考えています。

以上、3点についてお話をさせていただきましたが、これらを進めるにあたり、会員の皆様の協力体制の構築に加え、市区町村校長会と都道府県校長会、都道府県校長会と全日本中学校長会との強力な連携が不可欠と考えています。また、昨年度組織されました副会長会を機能させ、各地区との連携をより一層強固にしていくことも重要と考えています。このような協力体制、連携を基に全国の中学校教育の実態や課題をまとめた全国の中学校長の総意として全日中としての方向性を見だし、様々な課題について行政機関等にも意見を述べながら全国の中学校の教育活動の充実につなげていきたいと思っております。

結びになりますが、本会の充実に向け、これまでの歴代会長はじめ諸先輩方が築かれ継承されてこられたことを受け継ぎ「実践もあり理論もある有言実行の教育の実践的専門家集団」としての役割を果たすため、皆様とともに歩んでいくことをお誓い申し上げます、新役員代表としての会長の挨拶といたします。

第73回 全日本中学校長会総会

講演

最近の初等中等教育の動向（要旨）

文部科学省初等中等教育局主任視学官 宮崎 活志 氏



- 学校における新型コロナウイルス感染症対策について
学校における感染対策については、文部科学省が作成した衛生管理マニュアルによって、感染症対策の考え方、基本的な感染症対策、感染者が発生した場合の対応、具体的な場面ごとの感染症対策を示しているため、学校における日々の対策の参考にさせていただきたい。
学校で児童生徒等や教職員の感染が確認された場合の対応ガイドラインにおいては、濃厚接触者の特定に学校が協力する際の考え方、臨時休業の基準、オミクロン株への留意事項を示した。
感染症対策等支援事業は、児童生徒が安心して学ぶことができる環境の整備について校長の判断で迅速且つ柔軟に実施することができるよう学校裁量経費として学校規模に応じて一定額を補助しているものである。新型コロナウイルスの感染流行が長期化する中、引き続き感染症対策に万全を期す必要があり、とりわけ各学校等においては児童生徒が安心して学ぶことができる環境を整備していくことが重要と考えている。
- 新学習指導要領について
学習指導要領はその趣旨、内容が各学校の全ての教職員に伝わり、各地域、学校の創意工夫を生かした教育活動が展開されることが重要である。文部科学省としても引き続き必要な支援や周知に努めていきたい。
- 「令和の日本型学校教育」の構築を目指して（中教審答申）について
中央教育審議会初等中等教育分科会ではデジタル化等、社会の変化が進む中で次世代の学校教育の在り方について検討するため、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けた学校教育の在り方に関する特別部会を設置した。この特別部会においては主に、①一人一台端末等を円滑に活用した児童生徒への学習指導等の在り方について、②教科書、教材、関連ソフトウェアの在り方について、③学校内外の環境整備の在り方について、について議論を深める予定であり、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実すべく更なる検討を進めていく。
- GIGA スクール構想の推進について
令和元年度補正予算において、学校における児童生徒1人1台端末と高速大容量校内通信ネットワークを一体的に整備することから環境整備を進め、これまでに合計4,819億円を計上してきた。その結果、義務教育段階における1人1台端末については全自治体等の内98.5%にあたる1,785自治体が令和3年度内に整備完了予定である。臨時休業等の非常時における端末の持ち帰り学習の準備状況については、全国の公立の小中学校等の95.2%が準備済みである。
GIGAスクール運営支援センターはネットワークトラブル対応をはじめとした学校のICT運用を広域的に支援することを目的とし、ネットワークアセスメント、応急対応、ヘルプデスクの設置、ICT支援人材の育成等の機能を有する。各自治体の実情に応じて積極的に活用していただきたい。
学習者用デジタル教科書普及促進事業は児童生徒の学びの充実や障がい等による学習上の困難の低減に資するよう、学校現場におけるデジタル教科書の導入を促進するものである。令和4年度においては全ての小中学校等を対象に英語などの一部教科のデジタル教科書を提供し普及促進を図る実証事業等を実施する。この機会に学校現場でのデジタル教科書の活用を検討していただきたい。
GIGA スクール構想については開始から2年目を迎えており、環境整備においては世界水準と比べても遜色の無いレベ

- ルに達しつつある。実際に子供たちが使いこなせるようになり豊かな学びにつなげていくことが次のステップである。文部科学省としては様々な施策を強力に推進していく。
- 小学校における35人学級の計画的な整備と高学年の教科担任制の推進について
学級編制の標準については昭和33年の義務標準法制定による50人学級の実現以降、これまで3度にわたり人数の引き下げを行ってきたが、昨年義務標準法の一部を改正する法律が成立し、公立小学校の学級編制の標準が約40年ぶりに引き下げられた。
小学校高学年の教科担任制については、社会は急速に変化しておりデジタル社会やイノベーション時代を見据えた高度な人材の輩出が求められている。こうした人材を育成していくために義務教育9年間を見通した早期の段階から専門性の高い指導を行っていくことが重要であり、文部科学省としては引き続き取組を進めていく。
 - 教師の資質能力の向上等について
グローバル化や情報化の進展により、教育を巡る状況の変化も速度を増している。このような中で教師自身も高度な専門職として新たな知識技能の習得に継続的に取り組んでいく必要が高まっている。そこで新しい形で教師の研修を充実させていくための「教育公務員特例法及び教育職員免許法の一部を改正する法律」を本国会に提出した。概要としては①研修記録の作成及び資質の向上に関する指導助言等、②普通免許状及び特別免許状の更新制に関する規定の削除、あわせて改正前の規定により有効期間が定められた普通免許状及び特別免許状には、施行日以後は有効期間の定めがないものとする等の経過措置を設けた。
 - 学校における働き方改革について
令和3年度実施の「教育委員会における学校の働き方改革のための取組状況調査」においては、時間外勤務は平成30年度以降、一定程度改善傾向にあるが、依然として長時間勤務の教職員が多い状況である。教職員の勤務時間管理の指針において、ICTの活用やタイムカード等の記録による客観的な方法で勤務実態の把握を求めているところであるが、令和3年度の調査時点では325市区町村が実施されていなかった。現時点でも未実施の学校においては教育委員会と相談し速やかに取り組んでいただきたい。
 - いじめ・不登校支援・児童虐待対応等について
文部科学省においては現在、いじめ防止対策協議会において、いじめの重大事態調査における体制面や運用面の課題や方策等について有識者による検討を行っている。いじめの重大事態調査の目的はいじめの事実関係の確認やいじめの事案への対処、及び、同種の事案の再発防止である。重大事態調査の目的を再認識していただき、いじめ防止等の体制の見直しや再発防止に向けた第一歩となるよう引き続き調査の徹底をお願いしたい。
令和3年6月の児童生徒の自殺予防に関する調査研究協力者会議審議のまとめでは、児童生徒の自殺者数増加の原因としてコロナ禍において家族内の葛藤等の家庭内の不和や達成感等が得られる機会となる学校行事の中止等の学校環境の変化等が指摘された。こうした状況を踏まえ今後はSOSの出し方に関する教育を含む自殺予防教育の更なる充実や悩みや不安を抱える児童生徒の早期発見、対応等に資するICTの活用、関係機関等との連携体制の構築を進めていく。
- 以上、初等中等教育行政は我が国の未来を切り開くものであり、歩みを止めることは許されない。文部科学省としても未来を見据え、必要な施策に取り組んでいく。

石狩は一つ！

石狩・東部中 佐藤直己

石狩管内小中学校長会は、新会員29人(中9)を迎え、7市町村98人(中37)で今年度の活動をスタートした。本会は、教育改革の理念を踏まえ、「自立した人格」と「未来を切り拓く資質・能力」を育成する学校経営を目指し、学校力向上のための具体的な取組を推進している。コロナ禍での活動となるが、「石狩は一つ！」をスローガンに、関係機関との連携も大切にしながら、石狩管内が一つになった教育を推進していく。

【活動方針】

- 1 信頼される学校経営、管内教育の安定と充実・発展
- 2 職能向上を目指す研修活動の推進と教職員の資質向上
- 3 教育諸課題の把握とその解決
- 4 教育諸条件の整備や福利厚生等の推進
- 5 組織の強化と実態に即した会務の推進
- 6 会員相互の交流活動の推進
- 7 ポストコロナ社会での子どもの学びの保障

【活動の重点】

- ①人材育成
- ②「働き方改革」の推進
- ③新型コロナウイルス感染症対策による教育活動の工夫改善

新しい社会の形成に向けて挑戦する 子供を育てる学校経営の推進

上川・剣淵中 巖田佳奈恵

上川管内校長会は、南部和紀新会長のもと、新会員23人(新採用16人)を加え、22市町村89人の会員で今年度の活動を開始した。「愛情と信頼」「研さんと結束」の合い言葉を継承し、「ふるさとを愛し、他者と共に持続可能な社会を創造する人材を育てる学校の在り方」の究明と、住民の負託と信頼に応える上川教育の一層の充実発展に寄与する学校の教育力向上に努めている。今年度も各種事業を中止することなく、オンラインの活用など開催方法の工夫・充実を図り、校長の連携と課題解決に努める。

【活動の重点】

- 1 「愛情」と「信頼」に基づき、創意に富む信頼される学校経営の充実を努める。
- 2 校長自ら「研さん」に励むとともに、教職員の一層の資質・能力の向上に努める。
- 3 組織活動の充実と確かな情報共有を図り、会員の「結束」を強化するとともに、教職員の処遇改善に努める。
- 4 上川教育局・地教委及び道小・道中、教育関係機関・団体と連携し、教育課題の解決及び北海道教育をリードしていくことに努める。

地 区 だ よ り

宗谷の風土に根ざし、変化の激しい時代を生き抜く力を確実に育む質の高い教育を目指して

宗谷・浜頓別中 細谷隆志

宗谷校長会は、小学校32人、中学校20人計52人で組織されている。

本会は、結成以来「宗谷の風土に根ざした豊かな自然に育む子ども」というテーマを掲げ、社会の変化に伴う学校教育の諸課題を正面から受け止め、会員相互が研さんに励み管内教育の充実に努めてきた。本年度も管内全域で学校・家庭・地域が一体となり、活力ある学校づくりに全力で取り組む。

【運営方針】

- 1 保護者・地域の願いに応える学校経営の充実
- 2 会員相互の理解と連携を深め、校長会活動の活性化による管内教育の充実・発展
- 3 関係機関・団体との連携による教育課題の解決

【活動の重点】

- 1 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施・評価・改善に努め、愛情と信頼に基づく活力ある学校経営の推進に努める。
- 2 研修活動を充実し、校長の職能向上と教職員の資質・能力の総合的な向上に努める。
- 3 関係機関・団体と連携し、教育諸条件の改善・整備と教育課題の解決に努める。
- 4 校長会の組織を強化し、活動の活性化を図る。

連携と協調のもと諸課題の解決を目指す

函館市・桔梗中 長谷川秀雄

函館市中学校長会は、今年度3人の新会員を迎え、会員数20人で今年度の活動をスタートした。校長会組織を機能させ、「学校教育の質の向上」を目指して、校長一人一人がリーダーシップを発揮することで「GIGAスクール」「学校における働き方改革」等の取組を一層推進・充実させる。また、「いじめ問題」「不登校生徒等への支援」「新型コロナウイルス感染症対策」等の諸課題に対しても、校長会の連携と協調のもとで一丸となって解決に努める。

1 基本方針(要約)

- 校長会の組織を機能させ、経営課題を解決
- 「信頼される学校づくり」の創造
- 関係機関との連携、教育条件の整備充実

2 活動の重点(要約)

- 関係機関等とのネットワーク・CSを活用した教育課題・経営課題の解決
- 市教委、市小学校長会、幼小中高との連携の充実・深化
- 実践交流による校長のマネジメント力の向上
- 管理職後継者および教員(道教育大学函館校との連携)の育成に対する支援

学びの改革を先導する校長のあり方を求めて

胆振・開成中 細部善友

胆振管内校長会は、11市町の小学校66人、中学校42人の合計108人で瀧澤義守会長(虻田中)のもと、今年度の活動をスタートした。

本会は、時代の要請や学習指導要領の目標を実現するため、「チームとしての学校」の確立に向けた改善・充実に努めるとともに、総力を結集して迅速且つ適切に諸問題の解決を図っていく。

【活動の重点】

- 1 校長としての職能向上を図る研修の充実
- 2 学校経営の適正化を図る研究・実践及び教育条件の整備・充実
- 3 教職員の意識改革と資質・能力の向上による学校改善、働き方改革の着実な推進
- 4 後継者の育成に向けた事業の推進(後継者の発掘・育成システムの構築、胆振管内公立小中学校等教員等キャリアアップ研修会の実施)
- 5 道小・道中、第4ブロック、各市町校長会との組織的な連携の重視と行政機関並びに関係団体との連携強化
- 6 会員同士の親睦と福利厚生の実現に関する事業の推進
- 7 諸事業の機能的・効率的な運営改善と予算執行の適正化

新しい時代にふさわしい中学校教育を目指して

帯広市・帯広第一中 能戸貴英

帯広市中学校長会は、藤崎禎人会長(帯広第二中)以下、14人(内1人は義務教育学校校長)の会員で組織されている。帯広市校長会の基本方針『新しい時代を生き抜く帯広っ子の育成』の具現化を目指し、校長として主体性と指導性をもち、帯広市民の負託に応える活動を推進している。

今年度は、校長相互の協力や信頼関係を一層深めるとともに、「コロナ禍における帯広市学校教育推進の方針」に基づき、関係機関と連携しながら、中学校長ならではのスピード感等を生かし、諸問題の解決と活動の充実に努める。

【活動の重点】(要約)

- 1 中学校長会の組織を強化し、活動の充実に努める。(校種間連携の充実等)
- 2 教育課題の解決を図り、学校経営の改善に努める。(服務規律保持、働き方改革の推進等)
- 3 教育課程の整備・充実と特色ある学校づくり、確かな学力、体力の向上に努める。(GIGAスクール構想における個別最適な学びの実現等)
- 4 円滑な教育活動推進のための教育条件の整備・充実に努める。(人事に関わる交流・管理等)

地区だより

挑戦する校長会

釧路市・北中 水上俊司

釧路市中学校長会は、新たに3人の新会員(新採用2人)を迎え、15人で今年度のスタートを切りました。本川敬一会長の「挑戦する校長会」のスローガンのもと、釧路市教育推進基本計画や釧路市教育行政基本方針具現化のため、運営方針「校長の職能の向上と相互の連携のもと学校経営を支え合う」「今日的課題や情勢の変化に柔軟かつ的確に対応する」「情報を共有して横の連携を強化し、組織的に活動する」を意識した取組を展開してまいります。

【活動の重点】(要約)

- 1 コロナ禍における教育活動の推進、ポストコロナロナを見据えた学校経営の充実
- 2 確かな学力・小中連携・GIGAスクール構想の実現、学校における働き方改革等の課題追究
- 3 未来を見据えた積極的な人材育成と人材確保
- 4 道中や教育行政、関係機関との連携強化
- 5 いじめへの対応や防災教育等の子供の安全安心を目指した危機意識・危機管理体制の強化
- 6 職能組織としての力量の充実、会員相互の結束強化と親睦

能動的で活力ある

「チームオホーツク管内校長会」

オホーツク・北見北中 緒方隆人

オホーツク管内校長会は、16人の採用校長を迎え、総勢121人で構成され、3年ぶりに総会を会同して開催した。ふるさとに誇りと愛着をもち、ともに未来社会の創造に挑戦する児童生徒を育てるために、能動的で活力ある「チームオホーツク管内校長会」として、関係機関との連携をより一層強化し、管内的な取組を通して課題解決に努め、地域・保護者の信託に応える学校づくりを推進していく。

【活動の重点】

- 1 愛情と信頼に基づく、活力ある学校経営の推進
- 2 「生きる力」を育む教育課程の編成・実施と評価・改善
- 3 時代の変化に即した生徒指導の充実や特別支援教育の組織的な推進
- 4 研究活動を推進し、校長自らの研さん
- 5 教職員の資質・能力の総合的な向上
- 6 組織内や関係機関との連携による組織の強化
- 7 管内教育を巡る教育諸条件を把握し、その改善と整備・充実
- 8 教職員の処遇の改善

論文

子供が磨き合い、響き合い、高め合い、当事者意識をもって 心身ともにたくましく成長する 活力ある学校の創造

鹿追町立瓜幕中学校 玉川 弘 幸

1 はじめに

本校が位置している鹿追町瓜幕地域では、自然体験留学制度が昭和63年より始まった。センター留学、親子留学、里親留学で受け入れており、北海道、鹿追町、瓜幕地域の自然を堪能しながら、伸び伸びと留学生活を送っている。瓜幕地域の子供たちと町外・道外各地からの子供たちが、瓜幕小学校・瓜幕中学校で切磋琢磨しながら学んだり、交流することで、お互いの成長につながりしている。また、瓜幕地域への移住が促進されたり、自然体験留学を体験した教師の影響で自然体験留学を行う生徒が出てきたりするなど、35年間、地域および学校の活性化に大きく寄与し続けている。

本校では、鹿追町で紡ぎあげてきた幼保小中高一貫教育、自然体験留学制度、鹿追高校カナダ留学につながる英語教育、ジオパーク等の歴史や経緯・意図等、先達の情熱や苦勞・先見性を教職員とともに学びながら、学校教育を充実させ、子供たちを教え、育んでいる。

2 本校の課題

本校の生徒は、素直で、真面目に中学校生活を送っており、学力も高い。しかし、本校の生徒は「自信がない」「覇気・活気がない」ことが大きな課題である。

自然体験留学による多様性の環境を生かし、未来や社会、地域を創り、生き抜く瓜中生を育むために、大人も子供も、自分事として、当事者意識をもって、これらの課題を解決しなければならない。

3 課題解決のための本年度の学校経営の重点

そこで、本年度の学校経営の重点は、「子供が磨き合い、響き合い、高め合い、当事者意識をもって心身ともにたくましく成長する 活力ある学校の創造」とした。

4 課題解決に向けての具体的取組

- (1)自分事として当事者意識をもった教職員の取組
～子供が力を発揮できるように、大人が与え過ぎない、整え過ぎない環境作り
- ①授業改善～手応えのある学力向上を
(ア)瓜中生の課題の把握～「自信」「覇気・活気」「発信力」「発想力」が課題
(イ)「主体的・対話的で深い学び」を実現する

ための授業改善～「何を話しても受け入れてくれる」「多様な情報を取り入れ、自分の考えに自信をもって意見を伝えることができる」授業の構築

- (ウ)1人1授業公開、全教員による授業交流
～校内研修で、全教員がともに学び合い、高め合う検証改善サイクルの確立
- (エ)デジタル教科書、学習アプリを効果的に活用した授業改善
- (オ)読解力アプリ「TERRACE」および5教科基礎学習アプリ「学びポケット」の「eboard」,「NHK for school」の授業・家庭学習での個別最適化された効果的な活用
- ②働き方改革～子供に向き合う時間の確保
(ア)ペーパーレス化による印刷・用紙代25%削減、印刷時間の削減
(イ)Google Classroomによる連絡・情報伝達の効率化
(ウ)勤怠管理アプリ「HRMOS」による勤務時間の意識化、仕事の精査・優先順位の確立
- ③小・中・高・地域連携
(ア)小中連携における、中学生の存在感・信頼感・自己肯定感を高める取組の充実。
(イ)町内の施設・人材等を有効活用し、中高連携による地域課題解決探究学習の充実
(ウ)英語の授業において、即興のコミュニケーションを取り入れ、高校でのカナダ留学等に資する英語コミュニケーション能力の向上
- (2)自分事として当事者意識をもった生徒の取組
①学ぶ意義を考えながら、意識しながら学ぶ
②総合的な学習等で、答えのない課題に真摯に向き合い、取り組む学習の充実
③自ら考えて動く生徒会活動の充実
④町のジオパーク、バイオガスプラント等を有効活用し、SDGs達成に資する考え方や行動力を身に付ける学習の充実

5 おわりに

コロナ禍をチャンスと捉え、教職員が当事者意識をもって学び続け、教職員・保護者・地域との織りなす輪で子供を慈しみ、育みたい。また、子供が自分事として当事者意識をもち、たくましく成長していく学校づくりに、全力を尽くしたい。

文芸

ただ一言

小樽市立菁園中学校 宮澤 知

テンポ良く攻める姿勢を貫く授業やとことん子供たちや保護者と向きあう情熱。学校経営にとっては欠かすことのできない人材である。そんな優秀な教員が学級経営、授業、部活動で生きがいを見だし、突き詰めた後、教頭に昇任することが多い。ところが管理職という立場になって気付かされることがある。今までの仕事はいかに「個業」だったかを…。

昇任教頭の多くがそんな思いを抱いてきたのではないだろうか。その原因は、一般教員と管理職の職務内容の違いのギャップだけではなく、自戒の念を込めて…「困ったら教頭に」「何でも教頭に」という打破すべき学校文化がそこにあると考える。確かに任せることで教頭としての資質能力の伸長を期待する部分はある。が、社会が変わり、学校を取り巻く環境も大きく変わった今、校長のリーダーシップの在り方にも改革の視点が必要である。

校長は、何のために自分がやるべき校務を人に割り振りしているのか？ 当然、一人じゃできないからだ。そして校長は、職員に対して人材育成の視点で

様々な業務を責任をもってやらせ、達成感をもたせながら次なる「リーダーを育てる責任」と「持続可能な学校を創る責任」を有している。

教頭のなり手不足に対応するため、国として様々な施策が行われている。加えて、現場を取り仕切る校長の意識も高めるべきだ。長年の慣習により、教頭が何でも屋になっている職員室の環境を変えることができるのは校長だけである。家庭をもち、子育て中の年代の職員であっても安心して管理職を目指すことができるよう教頭の業務内容を見直すことで、教頭は校長を助け、職員室の担任として温かい眼差しで職員を支えることができるはずだ。

教頭を要に学校運営を活性化させるために、教務主任以下、各部長が「個業」に陥ることなく主体的・協働的に分掌業務を遂行する職場を創り上げるのが校長の一番の仕事。「校長のリーダーシップ」という言葉に胡座をかいて、自分を甘やかし、何でも教頭にさせるのではなく、教職員にガンと一発言える位の気概を大切にしていきたいと退職間近に思う次第である。

文芸

小さな島から日本中へ、そして世界へ

天塩町立天塩中学校 嶋本 敏幸

前任校の焼尻小学校に採用校長として着任して間もない頃のエピソードである。

北海道新聞釧路支局の記者から「焼尻小学校の校歌を作詞した加勢蔵太郎氏は焼尻出身であり、彼の情報や校歌制定時の資料があれば教えてほしい」という手紙がきた。この記者は釧路工業高校の校歌の取材過程で「校歌の作詞を蔵太郎氏に依頼したが断られた」という経緯を知り、彼のことを調べていたのである。私は自校の校歌の作詞者が焼尻出身であることに驚き、要望に応え調べてみることにした。

校長室の史料を調べると、蔵太郎氏の養父の玄海氏は新潟出身であり、明治12年に焼尻に来島し、その後願海寺の住職になったことが分かった。一番古い学校沿革史(大正13年改編)には「明治16年 願海寺の庫裡(くり)の一隅を借りて教授を開始す」との記述があり、焼尻小学校の前身である寺子屋の創設に玄海氏が大きく関わっていたことになる。そして、記者の情報を基にインターネットで調べたところ、有名な児童文学作家の中川李枝子氏(旧姓:大村)は蔵太郎氏の孫であることが分かった。彼女作の絵本『いやいやえん』や『ぐりとぐら』の作画を担当したのは李枝子

氏の実妹である大村百合子氏(現在の姓は山脇)。

『ぐりとぐら』は大ベストセラーとなり10の言語に翻訳されて海外でも出版されている。姉の李枝子氏は、映画『となりのトトロ』のテーマ曲『さんぽ』の作詞をしたことでも有名である。この映画も英語版が制作されている。

加勢玄海氏が焼尻の教育の灯をともし、その息子である蔵太郎氏が焼尻小学校の校歌を作詞して、島の子供たちに学校や郷土への愛着と誇りをもたせる。そして蔵太郎氏の孫娘は日本中さらには世界中の子供たちに夢や希望を届ける童話作家になる。

焼尻小学校の校歌を巡ってこんなに素敵な物語があることを知ってとても感動したのと同時に、この物語を発掘する「縁」に恵まれたこと、そしてそれを子供たちや島民に伝える「縁」を与えられたことに感謝する気持ちが湧いたことを覚えている。

子供たちや教職員、保護者、地域の方々など、たくさんの出会いや支えがあり、そこに「縁」が生まれる。このエピソードを思い出すたびに、それらの「縁」を大切に育んでいくことが学校経営の基盤であるということを改めて思うのである。



町をつくる

北竜町立北竜中学校 小玉 剛

北竜町は「ひまわりの町」だ。夏になるとたくさんのひまわりが多く観光客を楽しませる。

今では町の多くがひまわり。お米はひまわりライス。メロンはひまわりメロン。すいかもひまわりスイカ。油もある。ひまわり油。町の食堂の名前は「向日葵」。温泉はサンフラワーパーク。どれも美味しく、施設も自慢の温泉だ。

本校では世界のひまわり栽培活動として、何種類ものひまわりを育て、楽しんでいただいている。コロナウイルス感染症の拡大により数年中止しているが、生徒が直接ガイドする機会も設けている。これまでは外国の方もおり、グローバルな学びができていた。ひまわりをデザインしたTシャツを揃え、生徒たちがまちづくりに参画していることを自分たちで感じるととても良い機会である。

ひまわりライスは沖縄でも販売されている。その縁があり、先日は修学旅行で沖縄に行き、市場でお米の

販売研修をしてきた。試食をすすめ、「おいしい」と買っていかれる方がたくさんいて、北竜を誇りに思う瞬間だった。

先日は地域おこし協力隊の方が SNS のスタンプを作る話があった。もちろんひまわりをモチーフにしている。一番使用する機会の多い生徒たちの生の声を取り入れて、デザインやメッセージを選ぶ活動が予想できる。「ひまわり」を根底にまちづくりがあるので、地域との連携もとても分かりやすく、充実している。

今は、全家庭に種が配られ、夏になると町全体がひまわりでにぎやかに彩られているが、スタートは外国を参考にして始まったものと聞いている。一つの挑戦がまちづくりのもとになったことに感動を覚える。

本校のテーマも「動 (Do) まず、やってみよう」。何事も小さな一歩から。生徒たちが日々何か挑戦してくれることを願っている。



「無形之力」を備える

新ひだか町立三石中学校 日比野 光洋

最近、友人から故野村克也監督の「弱者の兵法」という本を読むように勧められた。友人は言う。「校長として、いかに組織を作るかが大事だ。この本はとても参考になったから、是非読んでみてほしい。」とのことだった。

野村克也監督といえば、プロ野球の名選手であり、南海ホークス・ヤクルトスワローズ等数々の球団で監督を任された方だった。ID野球を取り入れ、弱小チームを改革し、強豪チームに変えていった彼の本を私は何冊か読んでいたが、今回は友人からの勧めに素直に従い、じっくり読んでみることにした。

読んでいく中で私が深く感銘を受けたのが、優勝するチームは「無形之力」を備えているという点であった。この「無形之力」とは「形にならない力」「目に見えない力」のことを指し、プロ野球の世界で勝つためには選手全員がこの「無形之力」を身につけることが重要である。具体的に言えば、「分析」「観察」「洞察」「判断」「決断」「記憶」としてまとめられるという。

「分析」はデータや情報を収集し、研究すること。「観察」は目に見えることから情報を引き出すこと。

「洞察」は相手の心理を読むこと。「判断」とは「分析・観察・洞察」から得られた情報をもとに最も成功する確率の高い作戦を選択すること。「決断」は決めて実行すること。「記憶」は判断における正解率がより高くなるデータを蓄積することだった。

こうした「無形之力」はプロ野球界のみにとどまらず教育の場でも間違いなく役に立つ力である。教職員一人一人が日頃から「無形之力」を身につけようと努力し、それぞれが身につけた力をチームで共有する。そして、教頭を中心とした各チームのリーダーたちが連携して学校課題を解決していけば、強い組織を作ることができる。これを踏まえ、私は職場内における ONE チームとしての雰囲気醸成、且つ組織形成の根幹を担う教職員に同意識をもてるように働き掛けてきた。

現在、教職員の大量退職時代を迎え、多くのベテラン教員が現場を去り、初任者が急増し、教育現場の弱体化が懸念されている。しかし、これは見方を変えれば、組織改革の好機である。私はいち早く「無形之力」の重要性を浸透させ、若手教職員を育成し、新しい時代に適応できる体制を作っていきたい。

第73回全日本中学校長会研究協議会 北海道(札幌)大会に向けて

1 研究協議会主題

「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を形成していく日本人を育てる中学校教育」

2 主催 全日本中学校長会 北海道中学校長会

3 主管 札幌市中学校校長会

4 後援 文部科学省 北海道 札幌市 北海道教育委員会 札幌市教育委員会 他

5 期日 令和4年(2022年)10月19日(水), 20日(木), 21日(金)

6 開催方法 オンライン開催(全体会:Zoom ウェビナー 分科会:Zoom ミーティング)

7 分科会 【北海道地区担当分】

<第8分科会研究題 学校と地域の連携・協働による「チーム学校」の実現>

提案者 岩見沢市立栗沢中学校 伊藤 聡 校長 (空知地区)

壮瞥町立壮瞥中学校 松岡 賢晃 校長 (胆振地区)

司会者 岩見沢市立清園中学校 桐 渕 則 行 校長 (空知地区)

室蘭市立翔陽中学校 高見 恭介 校長 (胆振地区)

8 全体日程

日	時	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
大会前日	10月18日(火)					接続テスト				入室	分科会運営委員会
第1日目	10月19日(水)				入室	全日中常任理事会	入室		入室	全日中理事会	
第2日目	10月20日(木)		入室	開会式	文科省説明	全体協議会	昼食・休憩			分科会(13:30~16:30)(8会場)	
第3日目	10月21日(金)		入室	アフトラクション 全体会	記念講演		閉会式				

9 記念講演 講師 山口 真由 氏 (信州大学特任教授)

演題 「日本に突き付けられる新たなる規範 ～ポリティカル・コレクトネス～」

10 フラクション 内容 アイヌ民謡・舞踊

出演 アイヌ・アート・プロジェクト



第73回全日本中学校長会研究協議会
北海道(札幌)大会 シンボルマーク

シンボルマークのデザインに込めた思い

(1)5つの色は、札幌と北海道の象徴を表現

【自然】・「空色」…冬の北海道 ・「緑色」…スズラン (札幌の市花)

・「紫色」…ライラック (札幌の市木)

【開拓】・「赤色」…赤レンガ (北海道の開拓の歴史)

【伝統】・「藍色」…アイヌ文化の歴史と未来の融合へ (文様は翼を広げたフクロウ)

※「藍色」をウポポイ(民族共生象徴空間)のある白老町の位置に配置

(2)中心部の北海道の形の意味

・5つの要素が融合することで現在の北海道の姿があること。

・5色に囲まれた北海道の形の札幌市の位置に、札幌の象徴である赤星(北極星)を配し、第73回大会をチーム北海道の一員として、開催都市札幌を中心に運営すること。

令和4年度 地区別教育経営研究会計画 (6月24日現在)

道中経営部・道小経営部

Table with columns: 地区, 開催地, 会場, 開催日程 (月日(曜), 時程), 担当者 (氏名, 勤務校), 形態. Lists various regional education management study plans.

道中事務局日誌

6月6日～7月4日まで

Table with columns: 月日曜, 業務内容, 時刻, 場所. A daily log of activities from June 6 to July 4.

発行者 会長 野崎 均 事務局 札幌市中央区北1条西3丁目 敷島プラザビル4F
北海道中学校長会 TEL011-251-1344 FAX011-251-1302
編集者 道中情報部 http://www.dochu-kochokai.jp/